

p<0.0000		全 体	問17セックスへの関心					不 明
			ととも 心がある	ある程度 関心があ る	あまり関 心がない	まったく 関心がな い	嫌悪さ えして いる	
合計		936	10.1	51.0	29.1	3.1	1.0	5.8
問26一ヶ月の セックス回数	セックスレスでない群	514	14.0	58.6	24.1	1.6	0.8	1.0
	セックスレス群	292	6.8	46.2	37.0	4.8	1.4	3.8

4. 実際に異性に関わることを面倒だと感じている人は、セックスレス傾向が強い。

p<0.0002		全 体	問18異性に関わることは面倒か					不 明
			ととも 面倒で ある	ある程度面 倒である	あまり 面倒で はない	まったく 面倒では ない	異性と かわるこ とを嫌悪	
合計		936	2.6	32.3	42.5	16.6	0.2	5.9
問26一ヶ月の セックス回数	セックスレスでない群	514	1.9	29.0	47.7	20.4	0.0	1.0
	セックスレス群	292	2.7	41.4	37.3	13.7	0.7	4.1

5. この一年間にセックスした人数を尋ねると、セックスレス群は、既婚者でありながら19.2%が「ない」と回答するなど、セックスに対する関心が極めて低いことがわかる。「セックスレスでない群」では、「1人」が86.4%と高い。

		問26一ヶ月のセックス回数		
		合計	セックスレスでない群	セックスレス群
p<0.0000	全体	936	514	292
問24この一年間 のセックス人数	1人	77.5	86.4	69.2
	2人	3.7	3.9	3.4
	3人	2.3	2.1	3.1
	4人	1.6	2.1	1.4
	5~9人	2.5	3.1	2.1
	10~19人	0.5	0.8	0.3
	20~49人	0.4	0.6	0.3
	50~99人	0.1	0.2	0.0
	100人以上	0.1	0.2	0.0
	この1年間はセックスをしなかった	6.1	0.0	19.2
	不明	5.0	0.6	1.0

6. 最初のセックス（性交渉）をする前に、「初めてのセックス（性交渉）」というものを、

どのように考えていたかと尋ねた設問に対して、「重大なことである」と考えている割合がセックスレス傾向にある人達には多い。セックスレス群は、初めてのセックスの時から、セックスに対して極めて慎重であるということだろうか。

	問2 6ヶ月のセックス回数			
		合計	セックスレスでない群	セックスレス群
p<0.0291	全体	936	514	292
問2 8初交に対する考え	かなり重大なことだと感じていた	47.2	44.9	54.8
	やや重大なことだと感じていた	27.4	30.2	25.7
	やや軽く考えていた	17.4	20.6	14.4
	かなり軽く考えていた	2.8	3.3	3.1
	不明	5.3	1.0	2.1
	非該当			

7. ふだんのセックス（性交渉）回数を尋ねると、「ふだんセックスをしない」の回答がセックスレス群の28.8%に認められる。「セックスレスでない群」では、「付きに2～3回」が40.5%と最多であるが、「セックスレス群」では7.5%に過ぎない。

	問2 6ヶ月のセックス回数			
		合計	セックスレスでない群	セックスレス群
p<0.0000	全体	936	514	292
問3 3普段のセックス回数	毎日	0.1	0.2	0.0
	週に2～3回	5.0	8.4	0.7
	週に1回	13.3	21.6	3.4
	月に2～3回	26.3	40.5	7.5
	月に1回	14.7	18.7	11.3
	半年に2～3回	8.5	4.3	18.5
	年に2～3回	6.1	1.9	15.8
	年に1回	1.0	0.2	2.4
	年に1回未満	1.9	0.0	5.8
	ふだんセックス（性交渉）をしない	9.8	0.4	28.8
	不明	13.2	3.9	5.8

8. 「あなたは避妊することや、その方法について、相手とよく相談して決めているか」との問いに対して、「セックスレスでない群」では45.9%が「よく相談している」と回答するものの、「セックスレス群」は30.5%に留まっている。セックスレス傾向にあるカップルは、お互いのコミュニケーションが図られていないとは言えないだろうか。

		問26 一ヶ月のセックス回数		
		合計	セックスレスでない群	セックスレス群
p<0.0001	全体	936	514	292
問34 セックス・避妊相手と相談しているか	よく相談している	38.7	45.9	30.5
	あまり相談していない	37.9	36.2	43.2
	まったく相談していない	16.5	15.2	21.6
	不明	6.9	2.7	4.8

9. 「この一年間、避妊していますか」と尋ねると、「セックスをしていない」の割合が「セックスレス群」に 29.1%と高率であることから、「いつも避妊している」人は 33.2%に過ぎなかった。

		問26 一ヶ月のセックス回数		
		合計	セックスレスでない群	セックスレス群
p<0.0000	全体	936	514	292
問35 この一年間の避妊実行	いつも避妊している	46.7	56.2	33.2
	避妊をしたり、しなかったり	17.3	20.0	13.4
	避妊はしない	18.8	20.0	19.9
	セックス(性交渉)をしていない	10.2	0.4	29.1
	不明	7.0	3.3	4.5

以上、セックスレス傾向のある人達は、①初めて付き合った異性と今も付き合いしている人は少ない(セックスレス群 15.6% : セックスレスではない群 22.6%)、②セックスに対して「とても関心がある」割合が少ない(6.8% : 14.0%)、③異性と関わることを面倒だと感じている(44.1% : 30.9%)、④初交時のセックスに対して「かなり重大なことだと感じていた」(54.8% : 44.9%)、④セックスレスが高じてか、一年を超えるほ

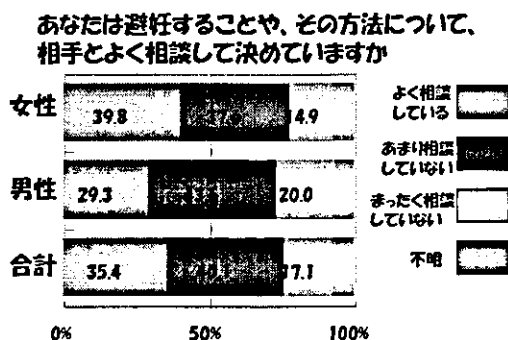
どに長期間にわたってセックスから遠ざかっている人が多い(19.2% : 0%)、⑤避妊することや避妊法について相手とよく相談して決めている割合が少ない(30.5% : 45.9%)などの特徴が浮き彫りにされた。異性とのコミュニケーションを図ることに消極的であるとか、セックスに対して前向きな姿勢を持つことができないと、セックスレス傾向が強まる可能性の高いことが示唆される。

Ⅱ. 男女間のコミュニケーションを「避妊することや、その方法について、相手とよく相談しているかどうか」という視点から考える。

本調査では、「あなたは避妊することや、その方法について、相手とよく相談して決めていますか」との設問が用意されている。男女間の意志の疎通を図るコミュニケーションの中では、セックスに係る「避妊する

こと」や「避妊方法」について相手と相談しているかどうかは重要なテーマではないだろうか。結果は、女性の39.8%、男性の29.3%が「よく相談している」と回答するほどに、わが国では男女間でのコミュニケーションは高いレベルで保たれている可能性がある。

それでは、「相談する関係」すなわち、男女間のコミュニケーションは、どのような場合に図られ、どのような場合に図られないのだろうか。男女別に各種項目とのクロス集計結果から、統計的に有意な差を示したものについて列挙し、考察を加えていくこととしよう。



1. 若い頃から、地域の他の年代との関わりが持っていた女性は、大人になってからの男女間のコミュニケーションが積極的に図られる可能性を示唆している。

女性		問3 4セックス・避妊相手と相談しているか			
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0004	全体	890	304	287	114
問2 若い頃、地域の他の年代と関わったか	よく関わった	47.5	60.2	44.3	43.0
	時々、関わった	38.0	29.9	39.4	37.7
	ほとんど関わりはなかった	12.6	7.9	15.3	15.8
	まったく関わりはなかった	1.5	1.3	1.0	3.5
	不明	0.4	0.7	0.0	0.0

2. (中学生の頃) 親や学校に反発していたと回答した男性は、男女間のコミュニケーション・スキルが概して低い傾向が認められる。

男性		問3 4セックス・避妊相手と相談しているか			
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0088	全体	690	166	246	113
問3 a (中学) 親や学校に反発	とてもそう思う	7.4	4.8	8.5	9.7
	ある程度そう思う	31.2	29.5	32.5	36.3
	あまりそう思わない	48.8	53.0	50.4	34.5
	まったくそう思わない	11.3	12.0	7.7	18.6
	不明	1.3	0.6	0.8	0.9

3. (中学生の頃) 友人や情報に流された女性は、概して男女間のコミュニケーションを図ることが苦手な人が多い。

女性	問3 4セックス・避妊相手と相談しているか				
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0001	全体	890	304	287	114
問3 b (中 学) 友人 や情報に 流された	とてもそう思う	6.1	4.9	5.9	14.0
	ある程度そう思う	37.5	38.2	42.2	24.6
	あまりそう思わない	45.7	46.1	46.0	43.9
	まったくそう思わない	10.0	10.5	5.9	16.7
	不明	0.7	0.3	0.0	0.9

4. (中学生の頃) 学校の成績がよかったと回答した女性は、男女間のコミュニケーション・スキルが高い傾向にある。

女性	問3 4セックス・避妊相手と相談しているか				
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0094	全体	890	304	287	114
問4 (中 学) 学校 の成績	非常によかった	7.3	5.6	8.4	9.6
	よかった	50.3	56.6	46.3	50.0
	悪かった	37.1	32.9	41.1	31.6
	非常に悪かった	3.8	3.9	2.4	8.8
	不明	1.5	1.0	1.7	0.0

5. (中学生の頃) 外見に「非常に不満を感じていた女性」は、男女間のコミュニケーション・スキルが低い傾向にある。

女性	問3 4セックス・避妊相手と相談しているか				
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0466	全体	890	304	287	114
問5 (中 学) 外見 について の満足度	非常に満足していた	1.2	1.3	0.3	1.8
	満足していた	28.2	29.6	28.6	25.4
	不満であった	60.1	61.8	59.9	55.3
	非常に不満であった	9.3	6.9	9.8	17.5
	不明	1.1	0.3	1.4	0.0

6. 親から虐待された経験のある女性は、概して男女間のコミュニケーション・スキルが低い。

女性	問3 4セックス・避妊相手と相談しているか				
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0282	全体	890	304	287	114
問6 親か ら虐待さ	しばしばあった	4.5	3.3	4.2	7.9
	時々、あった	11.8	10.5	10.1	17.5

れた経験	ほとんどなかった	32.5	31.3	37.6	25.4
	まったくなかった	50.8	54.9	47.7	49.1
	不明	0.4	0.0	0.3	0.0

7. (人生設計) 結婚の時期を計画的に捉えていない人は、男女ともに男女間のコミュニケーション・スキルが低い傾向にある。

男性	問3 4セックス・避妊相手と相談しているか				
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0252	全体	690	166	246	113
問9 a (人生設計) 結婚の時期	完璧に計画通り成し遂げた	3.6	3.0	4.1	5.3
	まあ計画に近ければよい	36.5	47.6	39.4	29.2
	計画は特に立てていない	55.2	44.0	52.0	62.8
	不明	4.6	5.4	4.5	2.7

女性	問3 4セックス・避妊相手と相談しているか				
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0012	全体	890	304	287	114
問9 a (人生設計) 結婚の時期	完璧に計画通り成し遂げた	3.7	4.3	2.8	6.1
	まあ計画に近ければよい	40.7	50.3	41.5	28.9
	計画は特に立てていない	50.8	42.1	51.6	60.5
	不明	4.8	3.3	4.2	4.4

8. (人生設計) 結婚後の就労について、「計画は特に立てない」と回答した人は、男女ともに、男女間のコミュニケーション・スキルが低い傾向にある。

男性	問3 4セックス・避妊相手と相談しているか				
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0472	全体	690	166	246	113
問9 c (人生設計) 結婚後の就労	完璧に計画通り成し遂げた	7.4	10.8	5.7	10.6
	まあ計画に近ければよい	40.1	47.0	44.7	36.3
	計画は特に立てていない	46.5	35.5	43.5	51.3
	不明	5.9	6.6	6.1	1.8

女性	問3 4セックス・避妊相手と相談しているか				
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない

p<0.0308	全体	890	304	287	114
問9c(人生設計) 結婚後の 就労	完璧に計画通り成し遂げた い	5.8	6.6	4.2	8.8
	まあ計画に近ければよい	44.5	53.3	46.0	38.6
	計画は特に立てていない	45.2	37.8	45.6	49.1
	不明	4.5	2.3	4.2	3.5

9. (人生設計) 子どもの有無について、「計画は特に立てない」と回答した男性は、カップルが互いに避妊などについて相談していない可能性が高い。

男性		問34セックス・避妊相手と相談しているか			
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0249	全体	690	166	246	113
問9d(人生設計) 子どもの 有無	完璧に計画通り成し遂げた い	6.4	9.6	5.7	8.8
	まあ計画に近ければよい	41.7	50.0	45.9	35.4
	計画は特に立てていない	47.1	34.9	44.3	54.0
	不明	4.8	5.4	4.1	1.8

10. 「男女の平等」について、早い年齢から知るべきと考えている男性は、男女間のコミュニケーション・スキルが高い。

男性		問34セックス・避妊相手と相談しているか			
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0035	全体	690	166	246	113
問101 男女の平等	3～5歳	3.2	4.2	3.7	3.5
	6～9歳	12.9	15.1	15.9	9.7
	10～12歳	33.3	42.8	34.1	31.0
	13～15歳	24.9	18.7	26.8	33.6
	16～18歳	10.4	10.2	10.2	9.7
	19歳以上	2.3	4.2	0.8	0.0
	個人によって異なる	8.4	3.0	7.3	8.8
	知る必要はない	0.9	0.0	0.0	1.8
不明	3.6	1.8	1.2	1.8	

11. 「人と人とのコミュニケーション」については、幼い時から知るべきだと回答した男性は、避妊や避妊法などについて「よく相談している」。

男性	問34セックス・避妊相手と相談しているか			
----	----------------------	--	--	--

		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0369	全体	690	166	246	113
問10o 人と人の コミュニケ ーション	3～5歳	8.7	13.3	9.3	8.8
	6～9歳	19.7	19.3	21.1	16.8
	10～12歳	30.9	33.1	32.9	29.2
	13～15歳	19.0	21.7	17.9	24.8
	16～18歳	7.0	3.6	9.3	4.4
	19歳以上	1.4	1.8	0.8	1.8
	個人によって異なる	9.4	6.0	6.9	10.6
	知る必要はない	1.2	0.0	0.0	2.7
	不明	2.8	1.2	1.6	0.9

12. 「性に関する倫理や道徳」について、早い時期から知るべきだと考えている女性ほど、「よく相談している」。

女性	問34セックス・避妊相手と相談しているか				
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0115	全体	890	304	287	114
問10p 性に関する 倫理や道徳	3～5歳	1.1	1.6	1.0	0.0
	6～9歳	4.9	7.6	3.1	4.4
	10～12歳	27.6	28.0	29.6	28.1
	13～15歳	39.2	44.4	41.1	33.3
	16～18歳	12.8	9.5	12.9	19.3
	19歳以上	1.7	1.0	2.4	1.8
	個人によって異なる	9.7	5.3	7.7	12.3
	知る必要はない	1.1	1.6	0.0	0.9
	不明	1.8	1.0	2.1	0.0

13. 異性と「付き合う」ということについて、「一緒にの人生を生きる者としての関係」「かけがえのない相手との関係」と回答した女性ほど、男女間のコミュニケーション・スキルが高い。その一方で、「セックスをする関係」と回答した女性ほど、「まったく相談していない」割合が多い。

	問34セックス・避妊相手と相談しているか				
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0124	全体	890	304	287	114
問11付き	セックスをする関係	2.0	1.3	1.7	6.1

合うとは	一緒に人生を生きる者としての関係	39.8	44.4	39.0	31.6
	1人に絞られた特定の相手との関係	29.3	31.9	31.7	28.9
	将来設計を描く相手としての関係	9.2	7.2	9.8	11.4
	かけがえのない相手との関係	4.3	4.6	3.8	1.8
	この中にはない	13.3	9.2	11.8	18.4
	不明	2.1	1.3	2.1	1.8

14. セックス（性交渉）をすることに、「とても関心がある」男性は、避妊や避妊法について「まったく相談していない」ことが多い。

男性		問34セックス・避妊相手と相談しているか			
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0353	全体	690	166	246	113
問17セックスへの関心	とても関心がある	20.6	20.5	23.2	34.5
	ある程度関心がある	59.9	69.3	66.3	48.7
	あまり関心がない	13.5	7.8	8.9	12.4
	まったく関心がない	1.4	0.6	0.4	0.9
	嫌悪さえしている	0.3	0.0	0.0	0.9
	不明	4.3	1.8	1.2	2.7

15. 「低用量ピルを知っているか」に対して「よく知っている」「ある程度知っている」と回答した男性と、「ある程度知っている」と回答した女性は、避妊や避妊法について「相談している」可能性が高い。

男性		問34セックス・避妊相手と相談しているか			
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0300	全体	690	166	246	113
問20低用量ピルを知っているか	よく知っている	5.8	7.2	4.9	7.1
	ある程度知っている	49.6	56.6	54.5	47.8
	あまり知らない	33.2	31.9	32.9	30.1
	まったく知らない	9.3	3.0	6.9	14.2
	不明	2.2	1.2	0.8	0.9

女性	問34セックス・避妊相手と相談しているか				
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0125	全体	890	304	287	114
問20低用量ピルを知っているか	よく知っている	11.0	13.8	10.1	15.8
	ある程度知っている	54.3	58.6	57.8	45.6
	あまり知らない	27.3	22.7	27.5	27.2
	まったく知らない	5.7	3.3	3.1	9.6
	不明	1.7	1.6	1.4	1.8

16. 「セックスの相手がかわること」に対して、「重大なことだと感じている」男女ほど、男女間のコミュニケーションがよく図られている。同様、「軽く感じている」人ほど、相談するチャンスが少ない。

男性	問34セックス・避妊相手と相談しているか				
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0224	全体	690	166	246	113
問25セックスの相手がかわること	かなり重大なことだと感じる	31.1	35.5	31.7	26.5
	やや重大なことだと感じる	37.5	44.0	37.4	33.6
	やや軽く考えている	21.4	16.9	24.4	27.4
	かなり軽く考えている	3.5	1.8	3.3	8.0
	不明	6.5	1.8	3.3	4.4

女性	問34セックス・避妊相手と相談しているか				
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0000	全体	890	304	287	114
問25セックスの相手がかわること	かなり重大なことだと感じる	56.1	64.8	49.5	52.6
	やや重大なことだと感じる	29.8	28.9	35.5	24.6
	やや軽く考えている	9.3	5.3	11.8	15.8
	かなり軽く考えている	1.0	0.0	0.7	5.3
	不明	3.8	1.0	2.4	1.8

17. 「初交に対する考え方」として「重大なこと」と捉えている女性ほど、相談する割合が高い。

女性	問3 4セックス・避妊相手と相談しているか				
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0085	全体	890	304	287	114
問2 8初交 に対する考 え	かなり重大なことだと感じていた	54.1	57.6	54.0	54.4
	やや重大なことだと感じていた	24.9	26.3	24.7	21.9
	やや軽く考えていた	14.0	13.5	15.7	15.8
	かなり軽く考えていた	2.1	0.0	2.8	6.1
	不明	4.8	2.6	2.8	1.8

18. 「初めてのセックス（性交渉）の時に、避妊をしましたか」と尋ねると、「した」と回答した女性ほど、相手と「相談している」割合が高かった。

女性	問3 4セックス・避妊相手と相談しているか				
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0007	全体	890	304	287	114
問3 2初交 時の避妊実 行	した	58.5	63.5	61.7	43.9
	しなかった	25.4	24.7	23.0	38.6
	わからない（忘れた）	11.4	8.6	11.8	17.5
	不明	4.7	3.3	3.5	0.0

19. 普段のセックス回数が多い人は、男女ともに避妊や避妊法について相手と相談する割合が高い。

男性	問3 4セックス・避妊相手と相談しているか				
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0049	全体	690	166	246	113
問3 3普段 のセックス 回数	毎日	0.5	0.6	0.0	1.8
	週に2～3回	6.0	5.4	8.1	4.4
	週に1回	14.7	13.9	18.7	12.4
	月に2～3回	26.3	39.8	24.4	20.4
	月に1回	13.4	14.5	12.2	18.6
	半年に2～3回	7.1	4.8	9.8	7.1
	年に2～3回	4.4	3.0	4.1	8.8
	年に1回	0.9	0.0	1.6	0.9
	年に1回未満	2.3	1.2	2.8	3.5

	ふだんセックス（性交渉）をしない	12.7	11.4	12.2	16.8
	不明	11.7	5.4	6.1	5.3
女性	問34セックス・避妊相手と相談しているか				
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0000	全体	890	304	287	114
問33普段のセックス回数	毎日	0.1	0.0	0.3	0.0
	週に2～3回	5.9	6.6	5.2	7.9
	週に1回	12.2	15.1	13.2	7.0
	月に2～3回	23.2	30.6	21.3	20.2
	月に1回	12.7	16.4	13.2	7.0
	半年に2～3回	8.4	6.9	10.8	10.5
	年に2～3回	5.8	2.6	8.4	10.5
	年に1回	0.8	0.3	1.0	1.8
	年に1回未満	1.7	1.0	3.1	0.0
	ふだんセックス（性交渉）をしない	14.5	9.5	13.6	28.1
	不明	14.7	10.9	9.8	7.0

20. 「この一年間に避妊をいつも実行している」と回答した人は、男女ともに「よく相談している」割合が高い。

男性	問34セックス・避妊相手と相談しているか				
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0000	全体	690	166	246	113
問35この一年間の避妊実行	いつも避妊している	44.0	61.4	42.7	34.5
	避妊をしたり、しなかったり	20.0	16.3	24.8	15.0
	避妊はしない	15.7	9.6	15.4	31.0
	セックス（性交渉）をしていない	12.7	10.2	13.0	15.9
	不明	7.6	2.4	4.1	3.5

女性	問34セックス・避妊相手と相談しているか				
		合計	よく相談している	あまり相談していない	まったく相談していない
p<0.0000	全体	890	304	287	114

問35この 一年間の避 妊実行	いつも避妊している	43.8	58.2	40.8	23.7
	避妊をしたり、しなかつたり	18.0	17.8	23.7	11.4
	避妊はしない	16.4	10.9	16.7	37.7
	セックス（性交渉）をしていない	14.2	8.6	14.6	23.7
	不明	7.7	4.6	4.2	3.5

「避妊することや、その方法について相手とよく相談して決めている」こと、すなわち男女間のコミュニケーションが図られていると定義することで、以下のことが明らかとなった。

(1)男女間のコミュニケーション・スキルは幼い頃から中学生くらいまでの生活の中で作られていくものであって、一朝一夕に高められるわけではない。

①幼い頃から、地域の他の年代との関わりが持っていた女性

②（中学生の頃）親や学校に反発することが少なかった男性

③（中学生の頃）友人や情報に流されなかった女性

④（中学生の頃）学校の成績がよかったと女性

⑤親から虐待された経験のない女性

(2)人生への取組姿勢が男女間のコミュニケーション・スキルにも影響を及ぼしている。

①（人生設計）結婚の時期を計画的に捉えている男女

②（人生設計）結婚後の就労について、計画を立てている男女

③（人生設計）子どもの有無について、計画を立てている男性

(3)男女の関係性を重要なものと認識している。

①「男女の平等」について、早い年齢から知るべきと考えている男性

②「人と人とのコミュニケーション」については、幼い時から知るべきだとした男性

③「性に関する倫理や道徳」について、早い時期から知るべきだとした女性

④異性と「付き合う」ということについて、「一緒に人生を生きる者としての関係」「かけがえのない相手との関係」とした女性

⑤男女の関係性を「セックス（性交渉）」と強く考えていない男女

(4)セックスや避妊について、真剣に考えようと努めている。

①低用量ピルについて知っている男女

②セックスの相手が変わることに対して、重大だと感じている男女

③初交に対して重大だと捉えている女性

(5)事実、男女間のコミュニケーションが図られている人ほど、現実の生活でも、避妊をすること、避妊について相談することについて努力している。

①初めてのセックス（性交渉）の時に、避妊をした女性

②普段のセックス回数が多い男女

③この一年間に避妊をいつも実行している男女

結語

男女間のコミュニケーション・スキルの向上が、本研究班の主要な課題であるが、コミュニケーション・スキルは一朝一夕に高められるものではなく、幼い頃から長い年月を経て身に付いて行くものである。そのような意味からは、母子保健事業の重要

なテーマの一つとして位置づけ、地道に取り組んでいく必要性を強く感じている。

男女間のコミュニケーション・スキルを向上させることこそ、セックスレスの解消、望まない妊娠や人工妊娠中絶の防止、さらには少子化からの脱却への近道であることを結語としたい。

若者達の性と今後期待される性教育

(社) 日本家族計画協会 常務理事・クリニック所長 北村 邦夫

はじめに一若者達の現実を直視して

「三重県の高三男女、産んだ女兒埋める」の記事(平成16年1月21日読売新聞朝刊)は衝撃的だった。記事は次のように続く。

「二人は1月4日午前4時頃、女子生徒が自宅で出産した女兒の遺体をタオルでくるんで女子生徒の自室に隠した。その後、6日午前11時頃、男子生徒が運転する車で同県内の山林に運び、スコップで掘った穴(深さ30センチ)に遺体を埋めて遺棄した」

友人の間では、彼女が出産したという噂が立ったという。誰にも相談できずにいた彼らの心情を思うと胸が痛む。「高校生の分際で」と頭ごなしに男女交際を否定する親に相談する道は開かれない。偏差値教育にどっぷりつかった学校に彼らの居場所があったのだろうか。身近には同級生仲間だっただろうに他人への無関心はここまでできたかと驚きを隠すことができなかった。「ねえやは十五で嫁に行き」と童謡で歌われるように、かつてわが国でも14、15歳で結婚、出産となることは珍しいことではなかった。動物としての極めて生理的な生殖

活動が繰り返されていたのだ。しかし、豊さを求めるがあまりに、高学歴化、晩婚化が急速に進み、動物としての性が歪められてきた。子どもたちは、このような社会が待ち構えていることを承知してこの世に生まれ育ってきたわけではない。大人たちの都合で次々と変えられていく社会。そのような中で戸惑う子供たち。

親や教師はこの現実をどう受け止めているのだろうか。まさか「うちの子に限って」と目を伏せたり、「寝た子を起こすな」と怠慢を決め付けてはいないだろうか。そのような無理解と性を語ることへの消極性が、子どもたちからの「サイン」を見逃し、相談を尻込みさせてしまうことには気づいていないのだ。

大人目から見たら頼りないとはいえ、若者たちにも「産む」「産まない」の選択権はあるはずだ。事実、15歳から19歳の女子人口千対の出産率は米国では64人でありながら、わが国の場合は4人と超低率である。若者たちのリプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)が軽視されている国とは言えないだろうか。産むことだけが美德だとは考えないが、産

みたい欲求がありながら強迫的に中絶に向けられることが健全な社会であろうはずがない。もちろん、中絶する権利が保証されていることも教えられなければならない。

秋田県では、妊娠、出産に至った生徒に追い討ちをかけるように教育の機会を奪ってしまっただけでなく05年4月から託児所を併設した定時制高校を設置しようという動きがあると聞く。若者たちがしでかした事件の後始末を社会がそこまで支援する必要はあるかなどという

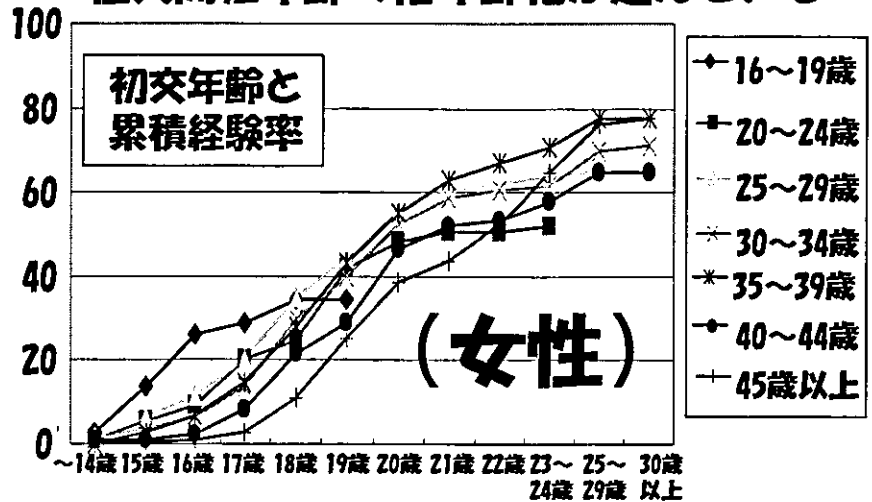
偏狭な考えは捨て、性・避妊教育を徹底しながら、多様な生き方や選択肢があることを若者たちに教えることができれば、今回のような悲劇は生まれなかったのではないかと悔やまれて仕方がない。

本稿では、「若者達の性が危ない」をテーマに、若者達の性の現状について触れるとともに、「新しい性教育の課題」に迫りたい。

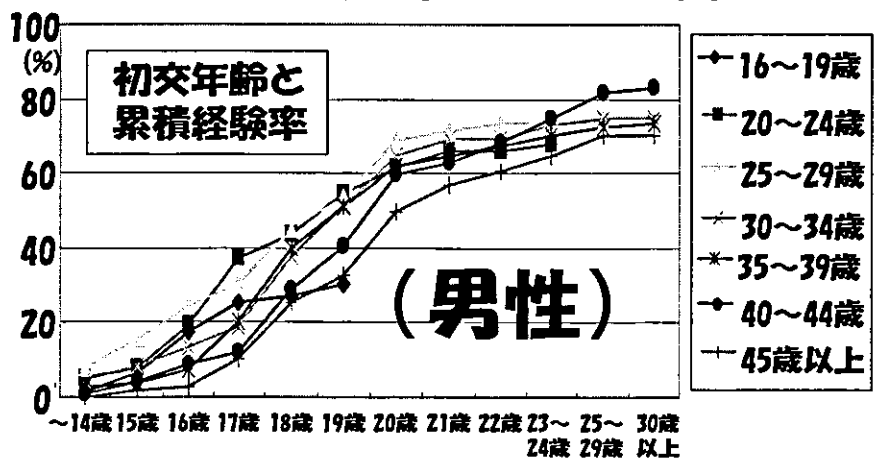
十代の性行動は低年齢化・加速化しているか

2002年度厚生労働科学研究班「望まない妊娠の防止と効果的な健康教育」の一環として、「男女の生活と意識に関する調査」を実施する機会を得た¹⁾。全国の16歳から49歳の男女3,000人を対象に、層化二段無作為抽出法という調査手法を駆使して行わ

(%) 性交開始年齢の低年齢化が進んでいる



性交開始年齢が早期化している証拠はない



れた本調査は、日本人の性意識・性行動を での性交累積経験率は他の年齢層に比べ低
知る貴重な資料として、今後しばらくの間、 年齢化、加速化が進んでいる。しかも、後

各方面で利用されていくも
のと確信している。この調
査結果から「十代の性」を
分析すると、男性では性行
動の低年齢化・加速化は認
められないことがわかった。

図は回答者の年齢階級別
に性交経験累積率を集計し
たもので、現在 20 歳代の男
性の方が性交開始年齢が早
く経験率も高い。筆者の印象で
は、十代男性の性交経験には二
極化が進んでいるように思われ
る。活発な男子と消極的な男子
に二分されているのだ。特に消
極的な男子の場合、インターネ
ットメディアなどの影響から
virtual の世界に心酔し、目の
前で呼吸し、泣き笑いする相手

との関係性を絶っているのではないか。自
己本位では他人との友好的なコミュニケー
ションを保つことはできない。そうするこ
とに煩わしささえ覚えているのだ。その一
方で、性行動の活発な男子が、避妊や性感
感染症の予防に無頓着であるために、リプロ
ダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健
康）を脅かしている可能性は高い。

女子の場合は、図に見るように、17 歳ま

20～24歳の女性の以下の年齢での性交経験率 (The Alan Guttmacher Institute: Teenage Sexual and Reproductive Behavior in Developed Countries, 2001 日本 は「男女の生活と意識に関する調査」2003)

	以下の年齢での累積性交経験率	
	15歳	18歳
スウェーデン (1996)	12.2%	65.2%
フランス (1992. 94)	7.4%	50.1%
カナダ (1996)	9.1%	53.4%
英国 (1990-1991)	4.1%	63.8%
米国 (1995)	14.1%	63.1%
日本 (2002)	9.8%	43.1%

初交時の避 妊法選択	年齢	注射法 /皮下 埋没法 /IUD	ピル	コンド ーム	他の方 法	避妊せ ず	合計
スウェーデン (1991)	16-18	0.0	13.0	41.0	24.0	22.0	100
フランス (1994)	15-17	0.0	15.1	66.5	7.1	11.3	100
英国 (1990-1991)	16-19	0.0	12.5	61.4	5.1	21.0	100
米国 (1995)	15-19	0.5	8.0	62.8	4.0	24.7	100
最近の避妊 法選択							
スウェーデン (1991)	18-19	2.1	49.9	24.1	17.3	6.5	100
カナダ (1995**)	15-19	0.0	59.2	28.4	0.6	11.9	100
フランス (1994)	15-19	*	63.7	*	23.1*	*	100
英国 (1990-1991)	16-19	1.3	67.5	23.3	3.8	4.1	100
米国 (1995)	15-19	9.3	32.5	33.0	5.2	20.0	100

(The Alan Guttmacher Institute, 2001)

述するように、避妊実行率が低いこともあ
って、当然の結果として妊娠を避けること
ができない。

一方、これらの結果だけを捉えて、わが国
十代の性行動を評価するのは早計である。
人間は社会化された動物であるという視点
から、動物としての性行動を今一度問い直
して見る必要はないだろうか。ちなみに、
他の先進諸国との比較をしても、わが国の

場合、むしろ不自然なほどに落ち着いたレベルにある（表）。

が主導権を握るところか、避妊に対する知識の曖昧さや避妊を男性まかせにする姿勢だけが目立っている。

十代の避妊

避妊実行率と避妊法選択とを他の先進諸国と比較すると²⁾、コンドームと膣外射精というように男性に避妊を委ねた方法に依存しているわが国女性の避妊意識、避妊行動の未熟さが目立つ（表）。

妊娠は当然の結果

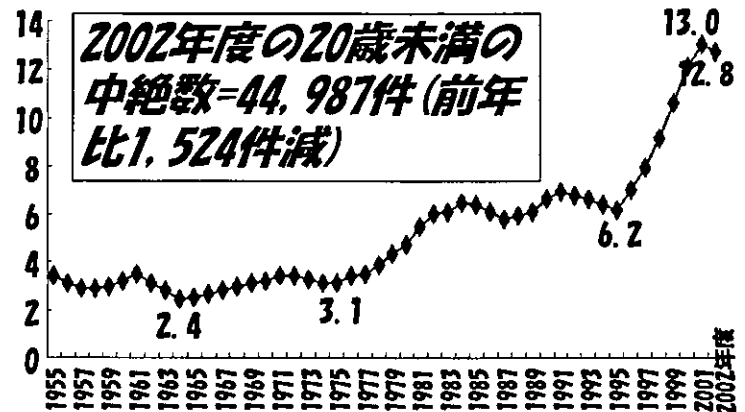
避妊実行率が低く、その上、避妊を男性任せにしているという歴史的な避妊行動を変えることができない限り、妊娠は当然の結果として起こる。しかし、産むことに手厳しいわが国の場合、人工妊娠中絶を選択せざるを得ない。

図は 20 歳未満で人工妊娠中絶を実施した女性に「今回妊娠したとき避妊はしていたか」について問いかけたもので、

膣外射精（24.4%）とコンドーム（19.0%）という結果であった。しかし、この結果を得ても、避妊を正確に行うことができなかった彼らに責めることはできない。彼らは、親や兄姉、教師、いや日本人の採っている避妊法を真似ているに過ぎないのだ。

世界人口白書³⁾には次のような一節がある。「女性が自分自身の出生力をコントロールすることは、すべての自由の源となる自由である」。女性たる者、自分が妊娠する性であることを十分認識した上で、女性主導型の避妊法を実践すべきだというメッセージである。しかし、わが国の現状を見ると、女性

15歳～19歳の女子人口千対の人工妊娠中絶率



今回妊娠したとき避妊はしていたか(複数回答、%)

膣外射精した	24.4
コンドームを使った	19.0
避妊ゼリーを使った	10.5
女性用コンドームを使った	0.0
ピルを飲んでた	0.0

避妊しなかった理由(複数回答、%) (N=626)

相手がコンドームをつけなかった	0
安全日だと思った	21.2
妊娠しても良いと思った	8.1
どうしたらよいかわからなかった	4.3

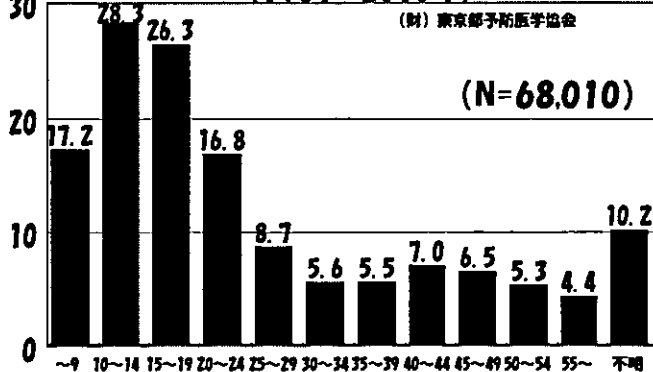
((社)日本産婦人科医会「10代の人工妊娠中絶についてのアンケート調査」、2002.11)

事実、20歳未満の人工妊娠中絶実施率は1995年以降直線的に増加しており、2002年度（衛生行政報告例）、僅かに減少したとはいえ、若い世代のリプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）を脅かしていることは事実である（図）。

十代に広がる性感染症（STD）

東京都内の産婦人科を何らかの理由で受診した女性について、クラミジアを疑って検査したところ、感染率は概ね10%前後、

クラミジア・トラコマティスの年齢別検出状況（1987～2000年）



そのうち20歳未満の陽性率が4人に1人と高くなっている（東京都予防医学協会調べ、図）。

クラミジアに感染したにもかかわらず放置しておくと、男性では前立腺炎、女性では子宮頸管炎や骨盤内感染症などを併発し、更にHIVに感染する危険性が3倍から4倍に増大する。妊婦などでは、生まれた子どもの封入体結膜炎や肺炎などが問題になる

こともある。尖形コンジロームに感染したことのある人については、HIV感染率は11.4倍にも増加する⁴⁾。こう考えると、クラミジアをはじめとしたSTDの早期発見、早期治療こそ、HIV感染予防の近道だといえる。

クラミジアや淋菌が、最近では性器からだけでなく咽頭粘膜からも検出されるようになった。オーラルセックス（口腔性交）の結果だ。性行動の多様化は、STDの感染経路にも大きく影響を及ぼしている。性器から性器、性器から口、口から口、口から性器という具合だ。それもこれも、フェラチオと膣外射精などが主流であるアダルトビデオからセックスを学ぶ現代若者像を反映しているとは言えないだろうか。

緊急避妊法⁵⁾

経口避妊薬（ピル）もコンドームも、それぞれに一長一短があって、100%安全で確実な避妊法ではない。しかも、セックスという行為の特殊性から、冷静沈着な態度で避妊を実行することが困難なことが少なくない。日本人が広く使用しているコンドームについても、破損や脱落、装着の誤りなどによって、セックスの場で、天国から地獄へと落とされた経験のあるカップルは相当数に上るだろう。緊急避妊法は、避妊

しなかった、避妊できなかった、避妊に失敗した、時にはレイプされたなどの場合に、望まない妊娠を回避する最後の避妊手段として、高い評価を受けてきた。英語の Emergency Contraception (EC) の訳で、性交後避妊 (Post-coital Contraception) とか モーニングアフターピル (Morning-after Pill) とも呼ばれている。

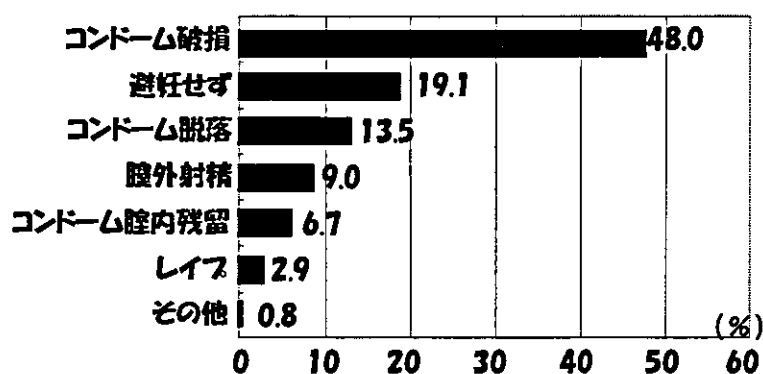
わが国では、もし運悪く妊娠したら中絶すればいいと、中絶に寛容な風土があるためか、医療従事者の間でも緊急避妊法に対する理解が殊の外低い。

国際的には相当進歩した緊急避妊薬が用いられているが、わが国の場合、政府から承認を受けた緊急避妊薬が存在するわけではなく、別用途で承認されている薬剤を転用する方法が採られている。エチニルエストラジオール 50 μ g とノルゲストレル 0.5mg を含有する中用量ホルモン剤 (商品名「プラノバル」「ドオルトン」がこれに相当する) を、無防備な性交が行われた後、72時間以内にできるだけ速やかに2錠服用させ、その12時間後に更に2錠服用させる方法である。

私どものクリニックには、2004年4月14日までに614人が緊急避妊外来を訪れている。受診理由などその背景は図の通りであるが、このうち、緊急避妊薬を処方し、治

療後の出血の有無、避妊効果、服用時の副作用まで正確に追跡できた421人のうち11人(2.6%)で妊娠が起こっている。すなわち緊急避妊薬は定期的に行っている避妊法よりも効果が低い。というのは、緊急避妊薬の場合、1回限りの使用に対する妊娠率を算出しているものであって、100人の女性が1年間に起こる妊娠率を求める他の一

緊急避妊法を必要とした理由 (N=614) (2004年4月14日現在)



般的な避妊法とは比較できないからである。ただ、排卵周辺期に避妊なしの性交が行われたときの妊娠率は平均8%という報告もあることから、妊娠のリスクを多少なりとも低下させることができるとするならば緊急避妊薬の使用をためらう理由はない。

新しい性教育の課題～包括的性教育

包括的性教育という言葉が注目を集めている。包括的性教育とは要約すれば、①性交開始年齢を遅らせることができる。これは禁欲を意味するものではない。親からの